

第十三回 貴族院家祿賞典祿處分法施行法案特別委員會速記錄
帝國議會

明治三十二年三月七日(火曜日)午前十時三十六分開議

○委員長(子爵谷干城君) 是ヨリ始メマス

○政府委員(松尾臣善君) チヨット御開キ前ニ當リマシテ家祿賞典祿處分法施行法案ヲ提出シマシテ理由ヲ申上ゲテ置キタウゴザイマス、ソレカラハ衆議院ノ委員會デ色々議論モゴザイマシテ衆議院ノ委員會ハ綿密ニ此事ニ付キマシテ質問ナドモゴザリマシタリ、ソレカラ又衆議院ノ委員長ガ本會ニ向ッテ報告サレタコトモ隨分綿密デゴザイマシタカラ御參考ニツレ等ヲ併セテ申上ゲ置キマス、明治三十年法律第五十號ヲ發布セラレマシテ家祿賞典祿ヲ持ッテ居ル者、金祿公債ヲ渡ス者ニ支給不足又全額ヲ支給セヌ者ガアリマシタラソレヲ追給スルト云フ五十號ノ第一條ニ規定シテゴザイマス、ソレハ此法文ヲ讀ミマス入組ンデ居リマスガ之ヲ取約メテ申シマスト明治三年九月十日以後家祿賞典祿ヲ有セシ者ニシテ明治四年七月二十四日太政官布告ニヨリ調査シタル祿高ニ錯誤アリテ金祿公債ヲ交付ノ際給與不足又ハ全部給與ヲ受ケザリシ者ハ追求スベシト斯ウ云フコトニナリマスノデゴザイマス、サウシマシテ明治三十年法律第五十號ヲ衆議院ニ於テ起草イタシマシタトキノ文章ハ單ニ明治三年九月十日以後祿高ヲ有セシ者ニシテ金祿公債ヲ交付ノ際不足ノモノ又ハ全部交付セザリシモノニ支給スルトノコトデアリマシテ頗ル廣イ意味デゴザイマシタ、然ルニ五十號ノ法律ノ案ガ貴族院ニ回リマシタトキ貴族院ニ於テ其文中ニ修正トシテ加ヘラレタ所ガゴザイマス、ソレハ御手許ニ參考トシテ御覽ニ入レテアリマス五十號法律ノ四行目ノ所ニ「明治四年七月二十四日太政官布告ニヨリ調査シタル以後ノ祿高及其調査以前ニ係ル藩制施行以後ノ祿高ニ錯誤アルトキハ」ト斯ウ云フ字ガコ、ニ御加ヘニナリマシテ即チ藩制施行以後ノ調査土臺トシタノデアリマス、ソレカラ又錯誤ニ依ッテ給與不足ノ者アルトキハ尙ホ調ベテ追給スルトノ二點ガ制限ノ意味デ加ヘラレタノデアリマス、サウシテ是ガ法律ニナッテ發布セラレタノデゴザイマス、然ルニ此五十號法律ノ第一條ノ所ニ矢張一ツ疑ガ起リマシテ決シ兼ネマシタノハ五十號法律第一項ニハ「明治二年九月十日以後」トノミアリマシテ錯誤ヲ正ス標準ガ明カデアリマセヌ故ニ施行上ニ差支ヲ來シマシタガ爲ニ之ガ標準ヲ明カニセラレムコトヲ願フ爲ニ今般施行法ノ第一條ニ以テ行キマシテ其標準ヲ掲ゲタノデゴザイマス、ソレデ第一條ニゴザイマスル標準ノ第一ハ則チ第一ニ「政府ノ布告其ノ他ノ命令ニ依リ定マリタル制度」ト書キマシタ是ニハ藩ニハ關係致シマセヌ分デゴザイマス即チ其中央政府ガ直接ニ處分致シマシタ宮、堂上舊宮人之ガ一ツノ祿制ノ制度ガ出デ居リマス、ソレカラ中下太夫以下ト云フモノガ一ツ出テ居リマス、之ガ舊公卿以下ノ祿制デゴザイマス、其他命令ト申シマスルモノハ或ハ各地ノ與力、同心等

ノ類モ亦其所ニ因テ別制度ガ立テ居リマス、是ハ布告、布達ニナッテ居リマスケレドモ命令デサウナッテ居リマス、要スルニ第一條ノ第一項ト申シマスルモノハ藩ニ關係致シマセズ、中央政府ガ自ラ制度ヲ立テ、處分致シタモノヲ指シタノデゴザイマス、ソレカラ第二項ニ「明治四年七月十四日前各藩ニ於テ最後ニ定メタル制度」之ガ則チ各藩ニ於テ藩制立藩中ノ一番後ニ定メタル制度ト云フ意味デゴザイマス、ソレデ各藩ノ知事ハ明治二年六月十七日ニ封土ヲ奉還シテ四月二十五日ノ太政官ノ達ノ中ニ「家祿御定メノ振合ニ基キ舊祿ハ適宜改革致スヘキ」ト云フ條ガゴザイマス、又藩知事ノ達ノ明治三年九月十日ニ即チ仰出サレタ藩制ト云フモノガゴザイマス、其第四項ニ藩ノ財政ノ標準ト云フモノガ示シテゴザイマス、此標準ニ據ッテ財政ノ整理ヲ致サナケレバナラヌコトニナッテ居リマスカラ此結果ニ因リマシテ舊祿ノ制度ヲ立テルノハ是ハ舊藩知事ノ當然ノ職務デゴザイマス、故ニ立藩中舊知事ガ最後ニ定メタル制度デアッテ太政官ニ於テモ其施行ヲ是認シタモノハ則チ其正當ノ制度デアリマスカラ此制度ヲ標準トシテ錯誤ヲ判別スルガ一番適當デアラウ、斯ウ云フ詮議デ即チ此施行法案ノ第一條ノ第二項ニ此事ヲ加ヘマシタ、然ルニ衆議院ニ於キマシテハ此施行法案ノ第一條ニ掲ゲテアリマスル標準ト云フモノヲ削除セラレマシタ、其削除セラレマシタ理由ト申シマスルモノハ三十年法律第五十號ヲ最初衆議院ニ削ラレマシタトキノ趣意ハ明治三年九月十日其當日ニ有シテ居ッタ祿高デアッテ金祿公債證書ノ交付ヲ受クル時ニ全部ヲ受ケナカッタリ又ハ受取不足ニナッテ居ッタ者ニハ追求スルト云フ意味デアッテ即チ衆議院デ起草ノ時ハサウ云フ意味デアッタ、然ルニ今度ノ施行法案ノ第一條ノ第二項ノ如ク各藩最後ノ制度トスレバ此趣意ニ戾ルカライケヌ、故ニ此施行法ノ第一條ハ削除スルト云フ、之ガ削除ニナリマシタ理由ナンド、成程法律五十號ヲ衆議院ニ於テ起草セラレマシタ時ノ心持ハ或ハサウ云フヤウナ心持デアッタラウト存ジマス、隨分文章ノ意味ガ廣ウゴザイマス、併ナガラ其法律案ガ貴族院ニ廻リマシテ貴族院ニ於テ之ニ修正ヲ加ヘ藩制施行以後ノ調査土臺トスルコトヲ一ツ其上ニ持テ來マシテ錯誤ニ因テ全部、一部ノ給與不足ニナッタ者ヲ給與スルト云フ修正案ガ確定致シマシテ之ガ法律トナッテ發布セラレタ譯ナンデゴザイマス、然ルニ衆議院ハ貴族院ニ於テ修正セラレマシタ趣意ハ殆ド眼中ニ置カズシテ五十號ノ法律ヲ衆議院ニ於テ起草シタ時ノ趣意ノミヲ以テ之ヲ施行シナケレバナラヌト云フノハ法律五十號ノ解釋カラ言ッテモ御趣意ニ戾ルコトダラウト思フ、殊ニ衆議院デモ此法律ヲ曲解シテ居ル譯ナンド、ト申シマスルノハ五十號ノ法律ニ明治三年九月十日ノ太政官布告藩制施行以後家祿賞典祿ヲ有シタル者ト云フ其以後ト云フ字ハ其日一日ノコトデアルト云フハ是ハ隨分曲解デアラウト思フ、ソレラノコ

トハ衆議院ノ委員會ノ時分ニ私共ハカメテ辯解ヲ致シマシタシ又説明モ致シマシタ、然ルニ其衆議院ノ委員會ニ於キマシテハ政府カラ提出シマシタ施行法案ノ一條ト云フモノハ適當ノ解釋デアッテ適當ノ條文デアルト云フコトニ委員會ハ極リマシタ、併ナガラ委員會ノ少數者ガアリマシテ其少數者ノ意見ハ之ニ反對致シマシタガ多數ノ委員ハ其方ニ同意セラレテ委員會ハ則チ政府ノ提出シタ案ヲ可決セラレタノデ、ソレデ其衆議院委員會ノ委員長タル濱名信平氏ガ衆議院ノ本議會ニ於テ報告セラレマシタモノガ玆ニゴザイマス、是ハ餘程能ク吟味シテ其報告ガ出來テ居リマスルカラ御參考ノ爲ニチヨット今讀上ゲマスルヤウニ致シタイト存ジマスルカラドウゾ御聽キヲ願ヒマス

〔政府委員永濱盛二君朗讀以下倣之〕

抑、此ノ原案ヲ贊成シマスル所ノ多數ノ者ヨリ見マスレバ、法律五十號ノ精神ニ背クト云フコトハナイノデアリマス、何故ニ法律五十號ノ精神ニ背カナイカト云ヘバ、第一昨年發布セラレタ五十號ノ法律ノ精神ト云フモノハ、不當處分或ハ錯誤ノ處分等ヨリ不幸ヲ被ッタ所ノ問題ニ對シマシテ、處分ヲスルト云フ精神ノデアリマス、然ルニ此第一條ノ法文ヲ能ク見マスルト云フト、各藩制度即チ最後ニ定メタ各藩ノ制度ト云フモノハ、如何ナルモノカト申シマスルト、是ハ即チ舊藩士ガ藩制施行以後ニ於キマシテ、ソレツレ一般ノ政令ニ基キマシテ、藩債ノ家祿ヲ改正シ或ハ調査致シマシテ、新政府ニ正當ノ手續ヲ致シタモノヲ以テ、其藩ノ制度トスルト云フノデアリマスカラ、廢藩置縣以前藩制施行以後ニ其僅ノ一箇年内外ノ所デゴザイマシテ、一般ノ政令ニ基イテ祿制ノ改革ヲ正當ノ手續ヲ經テ新政府ノ認可ヲ得テ、或ハ新政府ガ之ヲ相當ノ處分ト認メタモノハ、其藩ノ制度トスルト云フコトハ、致方ガナイノデアッテ、之ヲ不當處分ト云フコトハ、反對論者ト雖モ言ハレヌノデアリマス、デゴザイマスカラ、此案ニ附キシテ第一、五十號ノ精神ニ背ケルト云フコトハナイノデゴザイマス、又第二ニハ、抑、此五十號ノ法律ノ精神ト云フモノハ、藩制施行ノ當日ノ祿高ヲ以テ起點トスル、是ニ動キノアッタモノハ、即チ處分シナケレバナラヌト云フ反對論者ノ趣意デゴザイマスケレドモ、ソレハ五十號ノ法律ノ提出者當時ノ考ハ、サウデアッタカ知ラヌケレドモ、抑、此五十號ノ法律ト云フモノハ、衆議院ニ提出シナッテ、是ハ貴族院ニ行ッテ修正ヲ加ヘラレタモノデゴザイマス、貴族院ニ於テ修正ヲ加ヘタ所ノ趣意ト云フモノハ、衆議院ノ提出者ノ提出シマシタ所ノ趣意ノ末ニ持ッテ參リマシテ、斯ウ云フコトガアル、明治四年七月二十四日祿高ニ關スル太政官布告ニ依リ調査シタ以後ノ祿高及其調査以前ニ係ル藩制施行以後ノ祿高ニ錯誤アルトキハ、本法施行ノ日ニ於テ之ヲ給與スルト云フノデアリマシテ、抑、此藩制施行ト云フコトハ、藩制ヲ發布セラレタ九月十四日、其日ガ藩制ノ施行サレテ居ライノデアリマス、藩制施行ハ九月何日カデアリマスケレドモ、抑、此藩制ノ實行ト云フモノハ、十月カ十一月カ、或ハ又明治四年ニ亘ッテ居ルノデアリマスカラ、此法文ニ依リマシテモ、

藩制施行以後ノ調査ヲ土臺トスルト云フコトハ、貴族院ノ修正ニ於テ、既ニ衆議院ノ提出案ニ幾多ノ改正ヲ加ヘテアルノデゴザイマスカラ、私ハ此案ニ附キマシテハ、多年心配ヲシテ居ルコトデアリマスカラ、成ルベク多數ノ不幸ヲ被ッテ居ル士族デハ、復祿ノ處分ノ恩典ニ與リタウゴザイマスケレドモ、法ガ既ニ斯ノ如クナッテ居ル以上ハ、此法文ノ精神ニ基キ、又五十號ノ精神ハ觸レザル限リハ、困難ノ法案ト雖モ之ヲ可決致シマシテ、一日モ早ク復祿處分ノ結果ノ付クコトガ相當ト考ヘマス、是レ即チ多數ノ意見デゴザイマス、即チ委員長ノ報告ハ今御聽キニナリマシタヤウナ事柄デゴザイマス、尙ホ又委員會中ニモ贊成者ガゴザイマシテ望月長夫ト云フ人ハ委シイ演說ヲシテ居リマス、チヨット御參考ニ御聽キヲ願ヒタウゴザイマス

唯今第一條ニ附キマシテ、少數者ノ意見トシテ、削除說ガ出テ、又之ヲ贊成セラレル意見ガ出マシタ、併ナガラ私ハ此少數者ノ意見及此削除ニ贊成セラレ、意見ヲ以テ、却テ法律第五十號ヲ曲解シタルモノデアルト私ハ思フノデアアル(「ヒヤ」)ト呼ビ又「ノ」ト呼フ者アリ)聽カヌ前キニ「ノウ」ハ分リマセヌ(「分ッテ居ル」ト呼フ者アリ)成程法律五十號ヲ衆議院デ議決シタトキノ精神カラ見テ見マシタラ、此施行法ノ第一條ハ無論狄イ感覺ヲ御起シニナルニ相違ナイ、又法律五十號ヲ衆議院デ議決シマシタ當時、其當時ノ出願高ハ、七百三十萬アルト云フノニ、アノ法律ガ出タ以來非常ニ澤山ノ出願者ガ出テ、今日ノ高ハ壹億ニナッテ居ル、此壹億ニナッテ居ル人ガ、悉ク満足ヲ得ヤウト云フ、悉ク満足サセヤウト云フ趣旨デ、此施行法ヲ見マシタナラバ、施行法ガ狹ク見エルニ相違ナイケレドモ、第五十號ノ法律ヲ正當ニ解釋致シマシタナラバ、此施行法第一條ハ、極デ正當ナルモノトデアルト、私ハ信ズルノデアアル、此第一條ガ狹クナッタト云フ人ノ御論ハ明治三年九月十日藩制施行ノ日以後一日デモ家祿賞典祿ヲ持ッテ居ッタモノガ、三年九月十日以後ニ至ッテ持ッテ居ッタモノ、祿高ヨリトモ、明治九年ニ金祿公債ヲ受取ルトキハ受取高ガ少ナケレバ、悉ク錯誤デアアル、斯ウ云フ御論、即チ悉ク其本ニ復シテヤラネバナラヌ、斯ウ云フ御論、斯ノ如キ議論ハ、全ク此法律第五十號ノ先キカラ問題ニナッテ居ル、明治四年七月二十四日云々錯誤アリタルトキハト云フ、五十九字ヲ抹殺シテ、最初衆議院ガ議決シテ、貴族院デ意見ヲ變ヘテ修正サレタ、此修正サレタモノヲ扶殺スルト同ジコトニナリマス、是ガ少數者ノ意見ハ即チ法律ヲ曲解スル意見デアルト云フ所以デアアル、最初衆議院デ議決致シマシタトキニハ、唯明治三年九月十日以後家祿賞典祿ヲ持ッテ居ッタモノ高ト、ソレカラ其持ッテ居ッタ高ト、明治九年ニ金祿公債證書ヲ受取ッタモノ高トノ間ニ相違ガアレバ、悉ク其不足額ヲ給與シテヤルト云フノデ、衆議院ガ議決シタノデアアル、然ルニ貴族院ニ於テハ、左様ニ致セバ、其中間ニ正當ナル權力ニ依ッテ正當ニ改正セラレタモノヲモ、本ニ復サネバナラヌ、ソレハイケナイ、正當ナル權力ニ依ッテ正當ニ祿制ヲ改革シタ、此改革シタモノハ、此正當ノ祿制ニ據ルヨリ致方ガナイ、回復ヲシテヤルニハ、必シテ錯誤デ致シタ

所ガナケンケレバナラナイ、手落ガアルカ、間違ガアルカ、不法ノ處置ヲセ
ラレタカ、錯誤ガナイケレバナラナイ、縱令三年九月十日ニ持ッテ居ッタ高
ト、最後ニ貫ッタ高トノ間ニ相違ガアッテモ、此相違ガ間違デ起ッタ相違デナ
ケレバナラナイ、正當ノ權力ヲ改正セラレタモノハ、イケンスト云フ一ノ條件
ヲ挿入サレタノハ、即チ貴族院ノ修正デアル、是ガ錯誤デアルカ錯誤デナイ
カハ、何ニ依ッテ判斷スルカト云フコトニナッタナラバ、ソレハ私ハ其當時
ノ權力ヲ取調ベルヨリ致方ガアルマイ、祿制ハ何人ガ改革スル權力ヲ持ッテ
居ッタカ、如何ナル方式ニ依ッテ改革スルコトガ出來タガ、是ガ其當時改革
致シタ仲間ニ、改革致シタ其權力ガ正當ニ出テ居ルカ、ドウカト云フコトヲ
調ベナケレバ、其改革ガ正當デアルカ、不當デアルカト云フコトガ、分ラヌ
ト思フ、所ガ此當時改革シタ權力ハ、ドコニアルカト云フコトヲ極メタノ
ハ、三年九月十日ノ藩制、此藩制ニハ所謂綱領ヲ掲ゲ節目施設ハ、其藩各藩
デ此趣意ヲ斟酌シテ能クヤレト云フコトガアッタ、サウシテ各藩知事ニ任
セ、縣々ニ遣ニ藩ノ高ガ是ダケアル、此内ドレダケヲ知事ノ高ニスル、其内
ドレダケヲ海陸軍費ニスル、殘タドレダケノ一部ハ航海ノ入費ニ使フ、一
部ハ士卒ノ祿ニ充テヨ、倍テ又餘リガアッタ軍用金ニ充テヨ、此振割ヲス
ルコトハ藩知事ニ許ス、斯ウ云フコトニナッテ居ル、ソレデ其藩限デ、上士ハ
幾ラ、中士ハ幾ラ、下士ハ幾ラト云フ祿割ヲ定ムルコトハ、藩知事ガ慥カニ
出來ル、併ナガラ其當時大義名分ト云フコトハ、非常ニヤカマシキトキデ
アッテ、其内輪ノ區劃ヲ立テルコトハ、此法律デ許シタコトデアルケレドモ、
一ト通リヤルトキニハ、中士デナケレバナラヌヤツデアルニ、此ヤツガ功ガ
アルカラ拔擢シテ上士ニ擧ゲル、是ハ罪ガアルカラ祿ヲ奪フ、斯ウ云フ賞罰
ト云フコトハ、朝裁ヲ乞ハナケレバナラヌ、即チ死刑ニ處スルコトモ、朝裁
ヲ乞ハナケレバナラヌ、是ダケハ朝裁ヲ乞ハナケレバ、ドウシテモ出來ナイ
ト云フコトハ、制限ガ加ヘテアル、是ハ一遍讀ンデ見レバ直ク分ル、官祿ハ
各藩ニ任セ、サウシテ其次ニ功ガアッテ祿ヲ増ス、罪ガアッテ祿ヲ剝グト云
フヤウナコトハ、朝裁ヲ乞フベシ、斯ウ云フノデ、明白ニ此間ニ區別ガ立ッテ
居ルコトガ分ル、此區別ガ明白ニ分ッテ居ルナラ、其當時官制ニ基イテ、藩知
事ガ藩知事タル資格ヲ以テ、是ハ其當時願トカ伺トカ居トカ云フモノヲ出
スナラ出シテ、サウシテ自分ニ附與セラレタ權力ニ依ッテ正當ニ定メタ高
ハ、即チ錯誤デナイ、正當ノ高ト認メナケレバナラナイ、是ガ即チ錯誤デア
ルカ、正當デアアルカト云フコトヲ區別スル標準デアラウト思フ、デ、此施行
法ノ第一條ノ第二ニ書イテアル、即チ明治四年七月十四日前各藩ニ於テ最
後ニ定メタル制度ト云フ——幾ラ一番後トニ定メタモノデ、適法ニ定メラ
レタモノデナケレバ、往ケヌト云フコトハ、無論政府ハ異議ガアルマイ、又
不適法ニ定メラレタ制度ガアラウ筈ガナイ、不法ニ藩ヲ始末シタモノナラ
バ、無論斯ク規定シテ置キマシテモ、ソレヲ支給スルコトハ當リ前デアアル、
ソレデ私ハ此施行法ト云フモノヲ以テ、少シモ第五十號ノ精神ヲ縮小スル

モノデナイト確信スルノデアアル
ト云フヤウナ委員會ノ本議會ニ行ッテノ報告デゴザイマス、然ルニ衆議院
ハ矢張り貴族院デ修正セラレタ主意ト云フモノハ無視ニ等シクシテ衆議院當
初ノ意見ヲ貫カムト云フノデ遂ニ施行法案第一條ヲ削除セラレマシタ譯デゴ
ザイマス、ドウモ此施行法案第一條ヲ削除セラレマシタ譯デゴザイマス、
マス標準ガ判然イタシマセヌカラ餘程處分上ニ煩雜ヲ來シ行政上困リマス
ラドウゾ施行法案第一條ハ貴族院ニ於テ復活セラル、ヤウニ偏ニ御願ヲ致ス
譯デゴザイマス、豫メ是マデノ成行ヲ御話申上ゲマス
○小原重哉君 此一條ノ初ニ一條ト云フ下ニ書イテアリマス所ノ文ニ付テ
ハ唯今御説キ明シデゴザイマシタガ其中ニ明治二年十二月二日ノ布告ニ「中
下大夫以下ノ祿制」ト云フ文トツレカラ「明治三年五月二十三日ノ陪從ノ者
ヘ年限ヲ以テ扶助金」ト云フコト、明治四年七月四日ノ達ノ「神官ノ家祿ヲ定
メラル」是ハ矢張り第一條ノ「家祿又ハ賞典祿ハ左ノ標準ニ據リ之ヲ調査ス」
ト云フ部ニ這入ルノデスカ
○委員長(子爵合干城君) チョット私ハ此處デ御相談セネバナラヌコトガゴ
ザイマス、今議院法改正ノコトニ付テ總理大臣大藏大臣ニ出席ヲ請求シテ
置イタ所ガ今出ラレタサウデ、是ハ大事ナモノデスカラ暫時私ハ此席ヲ……
私ガ請求者デナケレバ宜シウゴザイマスガ私が請求者デゴザイマスカラ之ヲ
御相談ヲ願ヒタイと思ヒマス
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ
〔皆出席シマセウ〕ト呼フ者アリ
○委員長(子爵合干城君) ソレデハ暫時休ミマス
午前十一時三分休憩
午後一時二十五分開議
○委員長(子爵合干城君) 是ヨリ始メマス
○小原重哉君 私ハ政府委員ニ承リカケノコトヲ御答ヲ願ヒタイ
○政府委員(松尾臣善君) 先刻小原サンカラ御尋ニナリマシタ二年十二月二
日布告中下大夫以下ノ祿制トツレカラ三年五月二十三日ノ士族卒陪從ノ者ニ
年限ヲ以テ扶助金ヲヤル、ソレカラモウ一ツハ四年七月ノ神官ノ家祿處分、是
ハ矢張り施行法第一條第一項ノ「政府ノ布告布達其他ノ命令」ト云フ中ニ這
入リマス積リデゴザイマス
○小原重哉君 分リマシタ
○男爵渡邊清君 「命令ニ依リ定マリタル制度」トアッテ「命令ヲ以テ」ト無イ
「命令ニ依リ」トアルノデ私ハ甚ダ迷ウタ
○政府委員(松尾臣善君) 中下大夫ノハ、即チ布告ニナッテ居リマスカラ
「政府ノ布告布達」ト云フ中ニ這入ッテ居リマス、「其他ノ命令」ト云フモノハ
東京ヘノ御沙汰デ即チ小原サンカラ御尋ネノ士族卒陪從ノ者ニ年金ヲ賜フト

云フノハ是ハ布告デモ布達デモ無イ、即チ一種ノ命令デ出タノデ、サウ分ケ
タノデゴザイマス

○男爵渡邊清君 其御主意デアラナラバ政府ノ布告布達其ノ他ノ命令ヲ以テ
政府ガ定メタモノトスウ云フノデスナ

○政府委員(松尾臣善君) ツレハサウ仰セラレテモ同シコトデアリマスガ、
コチラノ方ガ文章ガ宜カラウト云フノデ斯ウ書イタノデゴザイマス

○男爵渡邊清君 ツコデ疑ヲ起シタノハ私ノ解釋デハ「政府ノ布告布達其ノ
他ノ命令ニ依リ」ト云フト藩ナドノ命令ニ依ッテ定メタ制度ト斯ウ解釋シテ
居ル「依リ」ト云フト政府ノ命令デ定メタヤウニ見エル「命令ヲ以テ」トア
リサウナモノダ

○政府委員(松尾臣善君) サウガ宜イト云フナラ御直シニナッテ宜シウゴザ
イマスガ是ハ文法上此方ガ宜カラウト云フ考デ斯ウシタノデ

○男爵渡邊清君 イヤ、強テ言ヒハシマセヌガ、此五十號ノ法律ノ第一條ノ
所ハ分リ惡イモノデハアルケレドモ明治三年九月十日太政官布告ノ藩政施行
以後家祿賞典祿ヲ有シタル者及ビ其賞典祿ヲ有シタル人デアッテツレガ明治
九年八月太政官布告百八號ノ布告及ヒ同年十二月太政官布告第五十二號ノ祿
高ニ對スル全部ノ給與ヲ受ケザル者若クハ相當額ニ不足アル者、是ハ一ツニ
歸スルノデスナ

○政府委員(松尾臣善君) サウデス、ツレハ衆議院ノ原案デス

○男爵渡邊清君 ツコデ全部ノ給與ヲ受ケザル者ト云フハ何カ仔細ガアッテ
受ケヌデ居ッたり或ハ相當額ノ給與ニ不足スル者ハ何カ理由ガアッテ給與ニ
不足ヲ生シテ居ッたりラウト云フコトハ是ハ全ク其全部ヲ受ケズ、又不足ト云
フモノガアル、ツレガ尤ト云フコトニシタカラ起ッテ來マスノデ明治四年七
月二十四日太政官布告是ハ又別ニナッテ來ルヤウデスナ

○政府委員(松尾臣善君) 別ト御讀ミニナッテハ此文章ガ讀メマセヌ、ト云
ヒマスルモノハ此初カラゴザイマシテ「全部ノ給與ヲ受ケサル者ハ相當額ノ
給與ニ不足アル者」ト云フノハ是人ヲ指シマシタ、其人ガ是ニ因テ錯誤
アルトキハト云フ「トキハ」ト云フモノガ若シ上ノモノデアルト云フ「トキハ」
ト云フモノガ仕方ガナイ、即チ斯ウ云フモノハ斯ウ云フ「トキハ」ト云フノデ
承ケテ居ルノデアリマス

○男爵渡邊清君 分リマシタ

○委員長(子爵谷干城君) 別ニ御議論ガナケレバ私ハ此際一言意見ヲ述ベテ
置キタイ、ツレデ私ハ此衆議院ノ委員會ノ多數ノ意見ト云フモノハ誠ニ適當
シタ解釋ト考ヘルノデアリマス、元々衆議院ノ立案ノ所ハ現今追ッテ來テ居
ル、衆議院デノ立案デアリマスケレドモ貴族院ニ於テ即チ此修正ヲシタ、修
正ノ趣意ト云フモノハ衆議院ノ立案ノ通りデハ到底之ヲ實行スルコトガ出來
ナイ、ムヅカシイト云フ所カラシテ即チ其錯誤ノアルモノ、全ク間違ッタモ
ノニ限リツレヲ正シテヤルト云フノ趣意ニ貴族院デ改正ヲシタノデソレデド

ウシテモ文法トシデモ亦貴族院ノ決議シタ精神トシテモ今日衆議院ノ修正案
通りニ賛成ハ出來ナイ、若シ之ヲ賛成スルト云フナラバ前修正ヲシタ精神ト
云フモノハ何所ニ在ルカ消エテ仕舞フ譯ニナル、ツレデ是ハモウ私ハ何所何
所マデモ此衆議院委員ノ多數意見ト云フモノガ相當ノ解釋ヲ下シタモノト見
又共ニ此貴族院デ修正ヲシタ其文意ヲ能ク解釋ヲシテアルト考ヘルノデアリ
マスカラ最モ賛成スル所ノコトデアリマス、抑此アル封土奉還ソレカラ藩政
改革ト云フコトノ際ト云フモノハ私ナドモ重役ノ端ニ居ッテ大抵諸國ノ事情
ヲ伺フテ居ルガ實ハ其書イタモノデ見レバ立派デアルケレドモ中々書イタモ
ノトコチラノ様子トハ決シテ一致シテ居ラナイ、ツレデ即チ此藩籍奉還ノ時
ノ文章ニ依ッテモ極ク骨子トナル所ノモノハ何カト云フト與フベキハ與ヘ削
ルベキハ削ル斯ウ云フノガアリ奉還ノ時ノ趣意デアッタ、ツレハドウ云フ趣
意デ書イテアルカト云フト詰リ一方デハ薩長ノ如キ非常ニ功ノアル藩ガア
ル、又一方デハ一向働カナカッタ藩ガ依然トシテ多數ノ祿ヲ私有シテ居ルト
云フコトニナッテハ朝廷ノ海陸軍ノ改革ト云フモノハ金ノ出所ガナイ、ツレ
デ詰リ藩ト云フモノハアノ時分ノ儘デ存シテ削ルベキモノハ削ッテカラツレ
デ以テ朝廷ノ財政ヲ鞏固ニシ海陸軍ヲ盛ニシヤウト云フノデ丁度ツレヲ譬ヘ
テ言ッテ見レバ普漏士ノ七十年ノ戰爭ノ上リニ鐵道國有ト云フコトヲ主張シ
テ先ヅ以テ自分ノ國ノ鐵道ヲ政府ニ獻上シタト云フ手本ヲ出シテ國有ヲヤッ
タ、ツレト同ジコトデ四藩ト云フモノガ言合シテ朝廷ノ改革ヲスルニ付テツ
レヲ言合ハシテ出シテヤッタ其時分削ルベキハ削リ與フベキハ與フト云フ骨
子ニナッテ居ル、サウ云フ精神デアリマスカラ實ハ藩々デノ改革ト云フモノ
ハ先ヅ適宜デアッテ成ルベク是カラ兵力ヲ養フニ付テ藩々デ大キナ藩ニ大キ
ナ祿ヲ食マシテ置イテハ到底藩ノ勢力ヲ張ルコトガ出來ヌ、藩ノ勢力ヲ張ル
コトガ出來ナケレバ日本ノ勢力ヲ張ルコトガ出來ナイ全體ヲ削ル精神カラ出
來タモノデアルカラ實ハ皆競フテ削ッタ、サウ云フ有様デアリマスカラ今日カ
ラ若シ之ヲ錯誤デアル、サウ云フ仕方ガ錯誤デアルト云フコトニナルト朝廷
ノ爲メニ盡シタ者ハ却テ不幸ニナリ因循姑息デ自然的ニ取ラレタ者ハ大變幸
ヲ得ルヤウニナル、ツレデ私共ノ恐ルル所ハ錯誤ト云フコトガ藩々ノ制度ノ
改革マデ遡ッテ制度ノ改革ニ錯誤ガアルト言ヒ出シタラ到底始末ガ附カヌ何
ンボアルカ知レヌ、ツコガ即チ貴族院ノ修正ノ最モ必要ナル所デ是ハ五十號
布告ノ時ニアノ通ニ改正ニナッタモノデアルカラ其精神カラ推シテ來マシテ
モドウシテモ斯ウナクテハナラヌ、若シ之ヲ衆議院ノ通りニシタナラバ到底
政府ノ處置ナシ能ハザルハ申スマデモ無ク遡ッテ舊藩ノ仕方ニ大ニ錯誤アリ
ト云フテ改正ヲセヌコトナラヌト云フコトニナルカモ知ラヌ、私ハ政府ノ原
案ノ通りガ適當デアルト考ヘマスカラ一言シマス

○宮島誠一郎君 唯今委員長ノ御述ニナリマシタ通り「明治四年七月十四日
前各藩ニ於テ最後ニ定メタル制度」此一項ノ分ガ若シ衆議院ノ如ク削除ニナッ
タナラバ或ハ世上ノ疑惑ヲ何程増スカ知レヌト思ヒマスカラ其事ヲ一應申上

グダイト思ヒマス、其元ハ明治三年正月デゴザイマス、私ガ初メテ朝廷ニ
……待詔院出仕ノ仰ヲ承ケマシテ最初ニ三條岩倉兩殿ノ命ヲ以テ各藩ノ藩制
取調御用掛ヲ仰付ケラレマシテ總テ二百二十七藩ノ祿高ヲ調ベト仰付ケラ
レマシテ、其當時二百二十七藩ノ租稅ヲ調ベマシテ、所ガ其結果九月四日ニ
於キマシテ十二箇條、朝廷カラ案ガ出マシテ待詔院制度取調ニ異議ガ有ルカ
無イカ證明シロト云フコトデ、固ヨリ更ニ異議ハ有リマセヌト云フ結果、書
付ヲ出セト云フコトデ書付ヲ出シマシテ、其書付ハ初ハ御用掛ハ廣澤參議デ
アルカラ廣澤參議ノ手許ニ出シマシテ所ガ此事ハ一大事件ダカラ右大臣三條
サン大納言岩倉サンニ出セト云フコトデ、其時

謹啓

御下問ヲ辱フシ候十二箇條ハ

國家永世ノ御基礎鍊成之

御廟算御確定ノ儀ニ有之臣素ヨリ異見無御座候但別紙華族東京住居之後知
事トシテ地方官赴任ノ向妻孥召連不苦之條右ハ十分一家祿ヲ以テ東京ト地
方ト各處ニ家族引分レ居住候テハ用度相足ル間敷存候ニ付現石千石未滿ノ
知事ニ限り地方官赴任ノ向ハ相當ノ官祿ヲ賜リ候様仕度不憚威嚴奉答仕
候

明治三年庚午九月四日

待詔院奏任出仕 宮島 誠一郎

右大臣三條實美殿
大納言岩倉具視殿

斯ウ云フ書付ヲ出シマシテ、ソコデ先ヅ私ト共ニ取調ベタ連中ガ四人アリマ
シタガソレガ皆死シテ、私一人殘ッテ居リマスガ、九月十日更ニ藩制ヲ仰出サ
レト云フコトデ賞典祿處分法ニ載ッテ通リノ文章デ即チ十萬石以上ヲ大藩
トシ五萬石以上ヲ中藩トシ三萬石未滿ヲ小藩トスルコト云フコトガ出テ所謂大
藩ト稱スベキモノハ金澤以下鳥取ニ至ルマデ十五藩、ソレカラ中藩ト稱スベ
キ五萬石以上ノモノハ弘前、是ガ十四萬石餘デ之ヲ初トシテ二十四藩、是ガ五
萬石以上十四萬石マデデ、ソレカラ五萬石以下ハ小藩ト稱テ二百二十七藩
トナリマシタ、此御制度ガ立ッテ所デソレカラ三條サン岩倉サンノ内命デ元ノ
上杉藩ナドハ一旦戊辰ノトキニア、云フコトハアツタガ有名ナ藩デアツタカラ
一ツノ標準トナッテ米澤藩ヨリ藩制ヲ改革シテ門閥ヲ聽取シ難シ十分ニヤ
レト云フコトデ此時私ハ呼出サレテ三條サンカラ御懇篤ナル御沙汰ヲ被リマ
シタガ、ソレデ改革シタノハ隨分手重イ改革デアリマシタ、ソレハ丁度庚午
ノ……明治三年ノ閏十月デアリマス、閏十月ノ其改革デ藩士俸祿從前高二千
石餘以下ノ者ハ現石十八石或ハ九石ニ改メ高五十石以下ノ者ハ六十石或ハ
五石四斗ニ改メマシタ、ソレデ貴族院議員ニナッテ居ル千阪ゴトキモ不平ヲ懷
キマシタガ藩制ガ落著シテ分明シマシタ、ソレデ朝廷ニ屆マシタノハ閏十月
デアリマス、ソレカラ年ガ明ケテ辛未ノ五月ニナリマシテ改革ガ出來テ、其

時ハ米澤ハ祿制ガ改革シテアルカラ此上ハ祿券ヲ渡サウト云フノ數年ノ後
朝廷ニ伺ツタ所ガ五月十四日ニソレテ宜イトナリマシタ、扱米澤ハ七月十四
日廢藩ノ時ニ是マデノ通テ宣シイト御沙汰ニナツタ、然ルニ當時右等ノ事情ガ
アツテ漸ク藩制ヲ立テテ置イタ、然リ而シテ家祿賞典祿ト云フ五十號ノ第一
條ノ布告ト云フモノガ怪シイ、アヤフヤ位ナモノニ思ヒマシタガ……然ルニ
各藩ニ於テ最後ニ定メタル制度ト云フモノハ今大藏省ノ政府委員ノ御話ヨリ
シテ見レバ其所ニハ餘程コチラガ間違ヘタコトモアリマスカラ是サヘシカ
リシテ居レバ聊カ三年ノ改革ハ維持シテ其儘ニイキマスガ之ヲ今度若シ衆議
院ノ通り決シテ見ルト實ニ何處マデカ其説明ニ苦シムト云フ政府ノ困難ガ來
ルダラウト思ヒマスカラドウゾ是ハ……

○有地品之丞君 是ハ家祿賞典祿處分法ニ續イテ出タ法案デアリマスカラ今
更ト云フ考ヲ附ケテ見タ所ガ五十號ノ法律ノ精神ニ違ッタコトハ決シテ出來
ル氣遣ハナイカラシテ此五十號ノ法律ノ精神ヲ擴メルトカ縮メルトカ云フコ
トハ決シテ今出來ルコトデナイト思フ、ソレニ付テハ先刻委員長ノ御說モア
リマシタ通りニ衆議院ノ委員會ノ多數說ガ十分ニ盡シテ居ル、ソレカラ今一
人望月ト云フ人ノ說モアル此等ノ人デ十分盡シテ居リマスカラ更ニ申スコト
ハナイ、アノ通りデ宜カラウト思ヒマス、即チ貴族院ガ此五十號ノ法律ノ出
ル前ニ決議シタ通りノ趣意ハ十分盡シテ居ルドウゾ此政府ノ提出ニナツタ通
リニ復活セラルルコトヲ希望スルモウツ言ヘバ此趣意ハ既ニ能ク分ッテ居
ルコトデヤカラ實ハ施行法案ガ出ナクッテモ貴族院ノ精神ノ通り政府ガ御施
行アツテ決シテ差支ナイコト、思ヒマスカラドウゾ速ニ御採決アラムコトヲ
希望シマス

○男爵渡邊清君 私ハ政府ノ今度ノ施行法ノ第一條ヲ見テドウモ最初ハ十分
疑ガアツタカラ議場デ質問モ致シ答辯モ煩ハシタノデアリマスガ能ク五十號
ノ法律ヲ點味ヲ致シテ見又追々ト勘考モ加ヘテ見ルニ此衆議院デ削ッタ一條
ハナイデモ政府ノ意向ノヤウニ五十號ノ法律デ行クデアラウト思ハレル、併
ナガラ此儘デハ何分標準トスル目途ガ附カナイト云フコトデアレバ是ハ已ム
ヲ得ヌカラ一應政府案ニ復シテ宜カラウト思フ次ニハ能ク此五十號ヲ見ルト
明治三年九月十日以後ヨリ廢藩マデノ間ノ所ノ取分ケヲ致シテ其以後ニ於テ
全部ノ給與ヲ受ケザル者、若クハ相當額ノ給與ニ不足アル者ハ即チ明治四年
七月二十四日ノ太政官ノ布告ニ付テ調査シタル後ノ祿高又ハ調査前ニ係ル所
ノ祿高ニ間違ガアル即チ錯誤ガアル……間違ガアツタラバ其間違ダケノ即
チ受取不足ト云フモノハヤラネバナラス、斯ウ云フコトデアアルカラ先ヅ一條
ガアルト尙更當局者ニ於テモ調査ガ仕易カラウト思フ、ソレ故ニ今日ニナレ
バ矢張一條ヲ政府案ニ復シタ方ガ將來紛議ノ起ラヌ爲ニ便宜デアラウト思
フ

○小原重哉君 私モ皆様ノ御說ヲ段々伺ヒマシタガ他ニ申述べルコトモゴザ
イマセヌ、此一條ハ必ズ復活シナケレバナラヌト信シマスルト云フ此考ヲ申

上ゲマス

○委員長(子爵谷干城君) トウデセウ、モウ大抵御多數御異論モナイヤウデ
ゴザイマス是デ決シマセウ、御異論ガナケレバ之ニ決シマス

(「異議ナシ」ト呼フ者多シ)

○委員長(子爵谷干城君) ソレデハ是デ散會シマス

午後一時五十八分散會